

## SSくんの全道優勝物語

子どものころ、全道大会に4回行きました。貧乏な家庭では、旅行代わりでした。

大人になって結婚して、子どもが生まれ、小3になったのでそろばんを教えました。2年後旭川の全道大会に連れて行きました。そこは昔と違い、とんでもなくレベルの高い変な世界でした。当然旅行みたいなもんです。

それから2年後、釧路で行われた全道大会で「4年生以下の部」が新設され、3年生の男子2名を投入しました。すると種目別競技で3枚の賞状を取ってくれたのです。「へー全道大会って賞状取れるんだー」って思うと、翌年からみんな入賞するのです。少し前まで「全道大会は旅行、賞状なんていらないさ」それが取れるようになったら、どんどん欲が出る。トロフィが欲しい・・・でもこれは難しい。自分の息子を使って6年ほど挑戦したけどダメでした。

仕方ない、よその子でやろう。SSくんのお父さんは職場の後輩です。「あーS、息子何才になったっけ」「年長です」「ちょうどいいな、そろばんやらせてみないか」・・・

ほどなくして、SSくんはお父さんとそろばん教室に来ました。よく笑う男の子です。よく笑うSSくん、練習を始めると、驚くほどの吸収力だったのです。当たるはずの壁らしい壁もなく、どんどん上達していきます。

ひととおりの授業が終わると、大会の種目別競技である「読上暗算」「読上算」の特訓をします。ある程度以上の選手を残して行うのですが、SSくんは年上の子に混じって、この練習にも参加します。もちろんそれができるレベルではありません。でも嫌がらずに練習を続けるのです。やがて16桁の読上算ができるようになります。読上算は「願いまし

ては〜」って始めるやつで、全道優勝レベルは7桁〜16桁の数字をランダムに10回早口で読上げ、それを聞き取り計算するものです。当時の4年生以下の優勝者は35秒くらい。

SSくんは4年生になっていました。全道大会は苦小牧で、満を持しての初出場です。総合競技(プリントの問題を解くやつ)、読上暗算が終わったところで昼食です。読上算は、優勝の可能性が十分にあることを言い聞かせてあります。昼食も食べ過ぎないようにして、集中力を高めます。

競技が始まりました。競技は超早い問題から読上げられ、上のクラスの優勝者が次々に決まります。読上げるスピードは次第に遅くなってきました。まだ4年生以下は優勝者が決まっています。SSくんは答えを書きました。ほかに数名が答えを書き、起立しています。答えを読上げ、不正解は席に座ります。SSくんは立ったままです。そうです、正解したのです!ところがほかに2名が正解していました。やべ〜!決勝だ。この3名で優勝を争うのです。全道一が目の前まで来たのに、ここからが本当の勝負です。見てるこっちの胸がドキドキしています。次の問題は、3名とも不正解、次は正解と続く決勝。やがて1名が正解できず、SSくんと高貴な家柄に見える女子との一騎打ちになりました。そして、最初の正解から7問目、SSくん一人だけが立ったままです。ついに優勝が決まったのです!自然と涙があふれます。

子どもの活躍にこんなに感動したことはありません。弱小そろばん教室から全道一が出るとは夢にも思っていませんでした。本当に感動をありがと。

翌年、小樽での全道大会。5、6年生の部に5年生で出場したSSくん。貫禄の2連覇です。嬉しくて騒ぎたい気持ちとぐっとこらえ、落ち着いた大人の態度にみせかけます。

全道優勝はこの2回で終わってしまいましたが、昼食の食べる量が少なくて心配したお母さんも、勝負どきに必ずバナナを食わせ続けたお父さんも、生涯、光り輝く経験になったものと思います。もちろん関わる事ができた私たちには、自慢のよその子ですよ!

成長し、あまり笑わなくなったSSくんは、この春高校に進学しました。進学先はSS(Sapporo South)高校です。すんげえな!

## 先生の読み手になるかも物語

読上算はとても早口で数字を読上げます。限界を超えて早く読もうとすると、音が丸くなり聞き取れなくなります。本人はきちんと読んでいるつもりでも、聞き取れなくなります。

SSくんは4年生で全道優勝してからもどんどん進化し、中学に入ったころには、私が読む30秒程度は楽勝でした。27秒くらいまでなら結構できます。ところが、大会の読み手と合わなければ30秒もできません。小6、中学生とレベルが上がるにつれ、早い利便になるので、ワニミスが命取りになります。一瞬でも聞き取れないと正解できません。特に最後の2年間、読み手との問題です。聞き取れないSSくんが、かわいそうだと思いつつも、心臓と頭に毛がない自分では、あの場で読むことはできないだろうと思っていました。

昨年7月の道央珠算選手権大会は、岩見沢が当番で開催されました。「読み手がいないので、岩見沢地区として読み手をやってくれ!」地区長からの命令です。「いやだよ。小心者であがり症だから読めないよ」「いいからやってくれ・・・恥をかいても1回なら仕方ねえ。いやだけどやるしかないか。

読上算は、3名の読み手が交代しながら進めます。無名の新人読み手は、当然3番手で回ってき

ました。加減算です。胸がドキドキしたまま頑張ったら24秒で読めました。きちんと聞こえたようで1名が正解しました。競技が終わり、過去最高のスピードだったと褒められ、おだてられました。

次は1月12日の北海道選手権大会で読んでくれて頼まれました。北海道選手権の読み手も3名ですが、今度は1番手の加減算でした。第1問は全道一を決める重要な問題です。人生最高の集中力をもって読み切ったタイムは22秒。また褒められ、おだてられました。

次は全日本選手権だって。なんだよ全日本って? YouTubeで調べましたよ!でもこの大会の読み手は、録音したデータを京都本部に送り、審査のうえ読み手が決まるそう。そんなの送ったって選ばれるわけないわや!で、送ったら「選ばれました!」ってライン。選手だけで700名もいるんですよ!その前で「願いましては〜」ってやれますか?考えただけでドキがムネムネして眠れません。2日くらい前になったら親〜死んだっていうか(ばれるぞ)当日腹が痛いってトイレにこもるか(うんこ先生っていわれるぞ)どうすればいいか悩んでいるところに「今年の全日本、コロナで中止になりました」・・・なんだよ、どっからでもかかってこいよ・・・

60年前でも練習すれば上手になることがあるんですねえ。口だけですが。ええ口だけですよ。コップを持つ右手と・・・

令和3年8月の全日本選手権も読み手を頼まれました。でもまたコロナで中止です。俺って疫病神かよ!

令和2年4月  
かどわき よしかつ

令和4年8月の全日本選手権は審査になり、一応、応募したところ、またも選ばれてしまいました。コロナで中止になるか、あかつ恥かいて帰ってくるか。ちょっと頑張ってみます!